別添2③

案件化調査
ベトナム国　安心安全な営農システム（IC-MOCS）普及のための案件化調査

企業・サイト概要

- 提 案 企 業：　井上石灰工業株式会社
- 提案企業所在地：　高知県南国市
- サイト：　ゲアン省、ラムドン省、ランソン省、メコンデルタ地域、
- C/P機関：　農業農村開発省（MARD）、果樹野菜研究所（FAVRI）、南部園芸研究所（SOFRI）

※IC-MOCSを構成する、レインカット栽培

ベトナム国の開発課題

- 生産性向上技術
- 農産物の安全性
- 都市や地方の卸売機能の不備
- 野菜のブランド化
- 加工産業

中小企業の技術・製品

提案技術であるIC-MOCSは、環境負荷が小さく、食品安全性の高い殺菌剤（ICボルドー66D）、展着剤（COGIANT66）、果実カバー（レインカット）の3つの栽培技術を中心に、現地の環境に合った作物栽培の関連技術（ローカル品種、灌漑、土壌改良、肥培管理、他）とそれらを実践・普及する人材の育成の5つの要素を含めた総合的な農産物生産システムである。

調査を通じて提案されているODA事業及び期待される効果

近年、ベトナムにおける深刻な農業問題は食の安全性である。これは、国内に流通している違法・不良農薬や農業薬剤全般にわたる不適正な使用が原因である。その対策は、検査・監視体制の強化だけでは不十分で、根本的には、現在の市場内の違法・不良薬剤に代わる安全な資材の提供が必要である。そこで本案件化では、安心・安全なIC-MOCSの導入を提案する。このシステムは、農業へ安全な薬剤を提供すると共に、普及人材の育成を合わせた制度であるため、導入によって薬剤の残留量の低下とそれを担う人材を育て、持続的で高品質な農産物の提供が期待できる。

日本の中小企業のビジネス展開

ベトナムにおけるIC-MOCSの構成製品は、既にベトナムで農業資材の豊富な販売実績を持つ日本の商社と販売代理店契約を締結しており、商社から現地のディストリビューターを通じた農家への販売体制はほぼ確立している。そして、今回のODA案件化と民間提案型普及・実証事業を通じて、ベトナムの政府関連機関などの公的機関へのIC-MOCS　の認知度が高まれば、ベトナム各地へ当社のビジネス展開が促進できると期待できる。現在、ベトナムでは殺菌剤（銅剤）はほとんどが輸入され、年間販売量は4,800tであるが、今後果樹や野菜などへ使用するようになれば、年間使用量は約3倍になるとの事前調査に基づいた試算がなされている。